

# ふじの温泉

発案者 本館患者様

第14号

2012年3月号

読みたい本はありませんか？

ふじの森図書室本館七階機能訓練室内)では、引き続き本のリクエストを受け付けております。「あの作家の本が読みたい」とか「この本の三巻が抜けてるから頼みたい」など、「ご要望にお答えしたいと思っております。これまで、偶数月(二・四・六・八・十・十二)にリクエストされた本を注文してきました。その数は百冊以上にもなります。注文先は、インターネットの古本販売サイトです。理解ある病院にも感謝したいと思います。本の数だけ人生があり、本の数だけ楽しみがある！ひとりでも多くの患者様の療養生活に豊かさを提供できれば幸いです。詳しくは本館リハビリスタッフまでお気軽にご相談ください。

## じゃがいも、奇跡の食材！

二月の冬真っ只中、畑作りが行われた。完全防寒着を身にまとった七名は、患者から農家へと身も心も様変わり。段取りは、石灰をまき、耕してから牛糞を加える。その後に行うのは畝作りだ。専門家のアドバイスをもとに、畝と畝の間は六十センチほどあけた。種芋は掘った畝の間に三十センチ間隔で落としていく。ここで迷うのは、色々な説があること。五十センチ空けるとか七十センチという人もいるし、中には一メートルというアドバイスも頂いた。食いしん坊な私たちは沢山植えることができるように、最小の三十センチを採択した。種芋は、畑作りから十日ばかり空けるのがベストだそうで、植えてから百日ほどで立派なものができるといいます。すごい。ジャガイモはまさに奇跡の食材！種芋を購入したお店の店主が言っていた。「ジャガイモは土壌の悪い北海道でもできるくらいだからだれでも出来ますよ」と。この言葉にほっとしたが、逆に、もし出来なかつたら…と考えるとなんだかプレッシャーを感じてしまう。そんな気持ちを払いのけるように、寒い中熱心に桑を振るう患者様の体からは湯気がでていた。(文責 大内)

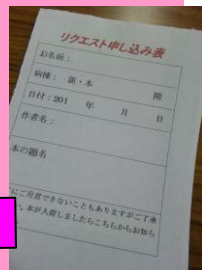


↑種芋の切り口に灰を付ける患者様。↓石灰に続いて牛糞を畑にまき、耕す患者様とスタッフ。



編集後記：東日本大震災を期に始まったリハビリ新聞も早いもので一年がたちました。温故知新をこころがけ、これからも日々、研鑽に務めていきたいと思う今日この頃です…。

リクエスト方法は簡単。本7図書室にあるリクエスト申し込み用紙に必要事項を明記して頂き、あとはリクエスト用紙回収箱に入れるだけ。



本が届き次第こちらからご連絡させていただきます。

2012年3月現在図書室

本の冊数は **3318冊**

来場者は **948名**です。

皆様の寄贈により図書室は運営されています。感謝します。図書寄贈はリハビリ(本7)大内までお願い致します。

月刊本館リハビリテーション新聞編集：本館作業療法課 協力：行事運営の患者様方

この新聞は本館各病棟、本館作業療法室、職員食堂、本館3階受付、運営スタッフ、今月のこの人に合計10枚配布しています。

# 畑作り、いよいよ始まる!!